

就職活動におけるエントリーシートの作成を支援するサービスの検討 ～評価観点の一致と他者からの気づきを活用して～

飯田望美[†] 上野歩[†] 中村亮太[†] 上林憲行[†] 片山友昭[‡]
東京工科大学[†] 株式会社ヒューマンソリューション[‡]

1. はじめに

近年の新卒採用試験において、エントリーシート（以下、ES）は企業が採用候補者を選定するために行う学生にとって重要な選考の1つである。本学では、3年次生を対象として2009年度より模擬ESの添削サービス[1]が実施され、2011年度からはサービスの一環として学生間で相互添削が取り入れられている。添削サービスではESの完成度に応じて3段階（A,B,C）の総合判定と10の改善項目（文章量、文字サイズ、悪筆、誤字・脱字、センテンス、論理性、曖昧表現、計画性・動機、具体性・方法論、将来性・ビジョン）が添削の専門家（以下、専門家）からフィードバックされる。

改善項目の計画性・動機と将来性・ビジョンはES独自の項目であり、自己分析で活動に対する動機やキャリアビジョンを明確化してから記述するため、マニュアルだけでは自身のエピソードに当てはめることが難しい。相互添削では、添削サービスへの提出前にお互いのESを読み、気づいた点や改善点などを指摘する。

相互添削導入前後の結果を比べるとA評価者が4.6倍に増加、B評価者が2.0倍に増加、B評価者が2分の1以下に減少し一定の効果が得られているが4割程度の学生は評価が停滞もしくは下降している。

本研究の目的は、ESの評価が停滞もしくは下降している原因を調査すること、調査結果からその問題を解決するための支援方法を考案することの2つである。

2. 学生間相互添削に関するフィールドワーク

先行研究[2]よりESの作成に有効であるとされている相互添削の実態を調査するために以下に示す2つのフィールドワークを行った。

- 指摘能力と改善能力：相手のESに対して指摘する力と相手からの指摘を自身のESに活かす力
- 評価能力：学生に求められているESのレベルを理解する力

2.1. 指摘能力と改善能力に関する調査

相互添削において、学生は相手のESに対してどの程度指摘できているのか、指摘された項目に対して改善できているかを調査するために3つのグループ（4人×3）の作業を観察した。

作業を近くで観察しながら指摘内容について記録した結果、誤字・脱字、具体性・方法論の項目を指摘される学生が50%以上存在した。次いで指摘の多かった改善項目は将来性・ビジョン、センテンス、論理性であった。

相互添削では学生間で指摘がしやすいと考えられる誤字・脱字だけでなく将来性や具体性といった文章構成に関する指摘も行われていたが、学生の指摘と専門家の指摘レベルに差異はないかという疑問がある。

そこで、相互添削での指摘と専門家から受けた指摘を比較した（図1）。なお、専門家の指摘は相互添削後に提出したESに対する専門家の指摘のことである。

相互添削で指摘が多かった誤字・脱字とセンテンスの指摘は専門家からの指摘が学生の指摘より少ないことから学生自身で改善できるといえることがわかった。

それに対して、相互添削の指摘より専門家が多く指摘している改善項目があることから、学生間では指摘ができていない改善項目があることがわかった。

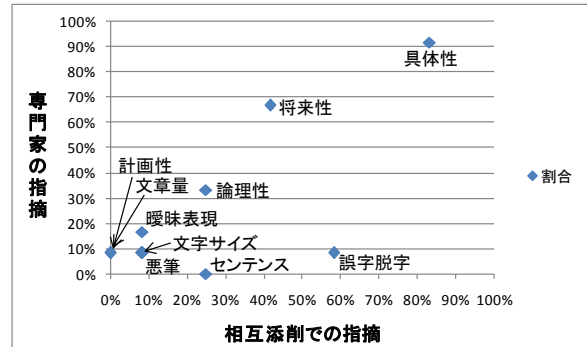


図1 学生間と専門家の指摘項目の違い

2.2. 評価能力に関する調査

他者のESを評価する学生がESの評価基準を理解できているのかを調査するため、12名にアンケートを実施した。調査の結果、自己評価と専門家の評価が一致した学生は全体の41%のみであった（図2）。このことからESの評価基準を理解できていない学生が半数以上存在することが示唆された。

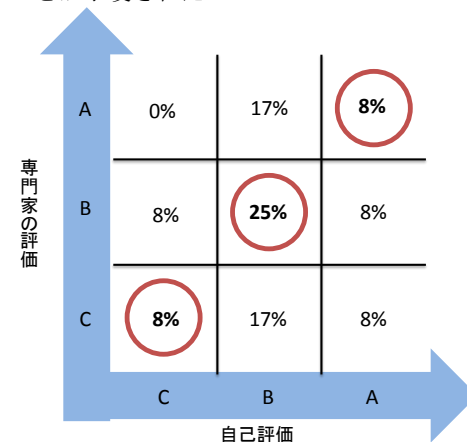


図2 自己評価と専門家の評価の乖離

Writing support service for application in Job hunting -The effectiveness of evaluating other student's job applications-
Nozomi Iida[†], Ayumu Ueno[†], Ryota Nakamura[†],
Noriyuki Kamibayashi[†] Tomoaki Katayama[‡]
[†]Tokyo University of Technology, Ltd. [‡]Human Solution

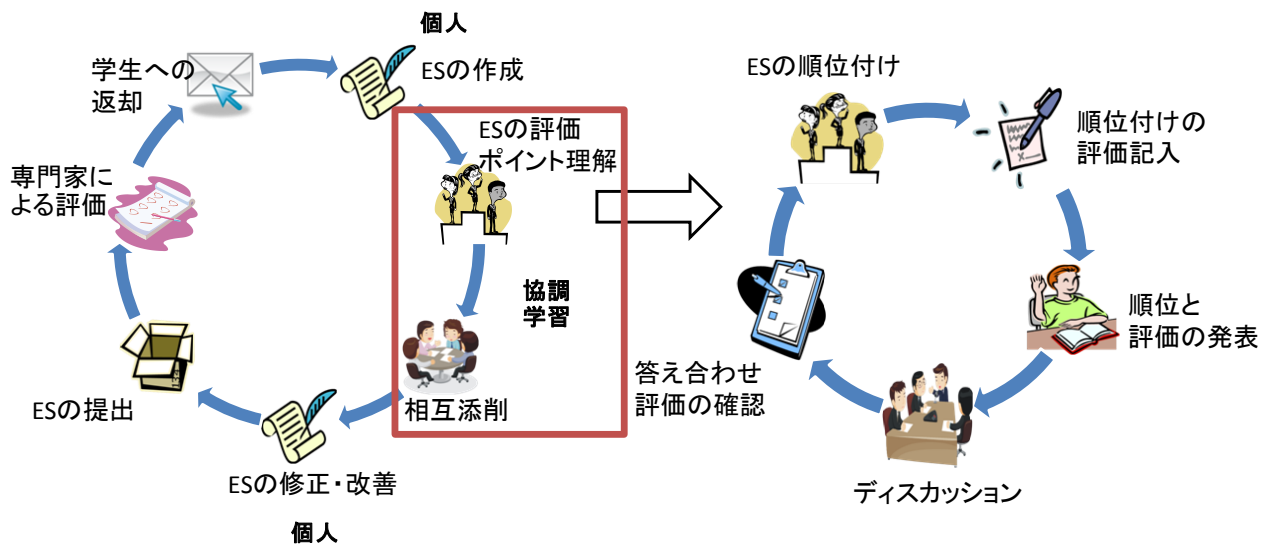


図3 ES作成プロセス

3. ES作成プロセスの提案

フィールドワークより、学生の評価能力の向上が、自身のES改善と他者のESへの適切な指摘に繋がるのではないかと仮説をたてた。

評価ポイントを理解するために、ES作成プロセスのES作成と相互添削の間に『順位付け』を取り入れることを提案する(図3)。

『順位付け』では、事前準備として同一の専門家が評価したESからA評価1枚、B評価3枚、C評価1枚の計5枚抽出し、個人情報情報を消去した状態で番号を振る。学生は良いと思ったESから順位を付けていく。

学生が取り組む順位付けのプロセスは以下に示す4ステップである。

- 1) 全てのESを読み、順位と評価をつける
- 2) 1位と最下位に選んだESの番号と評価理由について1人ずつグループメンバーに発表する
- 3) メンバーと順位や評価理由が違う場合にはその理由についてディスカッションする
- 4) A評価とC評価のESの番号と専門家の評価を確認し答え合わせする

4. 順位付け評価実験

評価実験は大学3年生12名を対象とし、ディスカッションをさせるために、ランダムで4チームに分けた。ESは『学生時代に頑張った取り組みの具体計画とその方法論を書きなさい』というテーマであり評価実験では、筆者がESの抽出を行った。学生は上記の順位付け4ステップに取り組んだ後にESを改善し添削サービスに提出した。また、順位付けで学んだことを理解できているかを検証するため、1ヶ月程度期間をあげ、1回目と異なるESを使用した順位付けを再度実施した。1回目の順位付け後に提出したESの評価は、A評価3名、B評価5名、C評価4名であった。

1回目の順位付け結果は、1位のESを正しく順位付けられた学生は全体の25%であった。正解者をESの評価別にみるとA評価1名、B評価2名であり、C評価の学生は1位のESを選ぶことができなかった。ESの評価理由は段落が適切か、誤字・脱字はあるかといった評価が多かったが、記述内容について評価している学生も存在した。

多かったが、記述内容について評価している学生も存在した。

2回目の順位付けでは1位のESを正しく順位付けられた学生が全体の41%に増加した。1回目と同様に正解者をESの評価別にみるとA評価3名、B評価2名であり、A評価者3名全員が正解していた。しかし、C評価の学生は前回と同様に1位のES選ぶことができず、B評価の学生にも2回とも1位のESを正解なかった学生が存在した。正解できなかった学生の多くは誤字。脱字や取り組みから得たことの価値観で評価していた。

以上のことから、評価の低い学生は評価基準を理解できていないために評価が上昇していないと考えられる。したがって順位付けの正答率を上げることでESの評価上昇に繋がる可能性がある。

今後は、順位付けを複数回行いの正答率が上昇した後にESを作成し提出すると評価が上昇するかについて、評価能力の向上が、他者のESへの適切な指摘に繋がるという仮説について検証していきたい。

5. おわりに

本研究では、ESの相互添削における問題点に着目し、学生がESの評価基準を理解していないという問題を解決する支援方法の考案することを目的とした。他者のESを評価することで評価基準を理解し、学生自身がES作成に活用する『順位付け』を考案し評価実験を行った。2回の評価実験から、評価が低い学生は評価基準が理解できていないことが明らかとなり、順位付けの正答率を上げることでESの評価上昇につながる可能性がある。

参考文献

- [1] 上野歩, 中村亮太, 上林憲行: 複合的なメディアを活用した模擬エントリーシートのフィードバックサービス, 情報処理学会, 研究会報告グループウェアとワークサービス, 2010-GN-76(13) (2010)
- [2] 平田恵梨奈, 片山友昭, 中村亮太, 上林憲行: 就職活動エントリーシートの品質向上に関する研究-学習コミュニティの協調学習を適用して-, 情報処理学会, 第73回全国大会講演論文集, 2011(4) pp.555-556 (2011)